

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---------|--|
| 豊かな心・情操 | ①自己肯定感・自己有用感を持ち、自己実現に向け努力する生徒を育成する。 ②自他の人格を尊重し、違いを認め合い、感謝の心を持つ生徒を育成する。 ③礼儀や規律を重んじ、仲間や地域社会への貢献活動を実践する生徒を育成する。 |
| 担当 | 学習指導部 |

| 豊かな心に関わる本校の状況 |
|--|
| <p>○限定された人間関係のみで満足し、なかなかコミュニケーションの幅を広げようとする生徒が多い。</p> <p>○自らと違う意見や考えの許容力が低く、対応しきれない生徒も多い。</p> <p>○自分に甘く、他人に厳しい。自分を客観的に見つめて向き合う力に乏しい生徒もいる。</p> <p>○コロナ禍により対話が制限された影響なのか、伝えあうことに苦手意識をもつ生徒が多い。</p> <p>○礼儀や規律はおおむね良好に保たれている。</p> |

| 今年度の目標 |
|---------------|
| “ちがい”の許容力を高める |

| 目標を実現するための具体的行動プラン | |
|--------------------|---|
| 上半期 | <p>○ 違う意見に触れる機会を増やす。 ⇒自分と他人の意見が合うこともあれば、違うこともある。違いがあるのが当たり前であり、他人の意見を受け止め、そこからどのように合意形成するかが大切であることを意識させる。授業内では、一つの正解に縛られない多様な意見や考え方を引き出したい。特に道徳では、立場によって意見が変化することも多いため、積極的に違う意見を引き出したい。</p> <p>○ 人間関係の幅を広げる。 ⇒普段の観察から、固定された人間関係の中での課題解決ではなく、新しいグループでの課題解決を図る。</p> |
| 下半期 | <p>○ 合意形成の体験を増やす ⇒自分ひとりで結論を出すことができない課題を、意見交換などのコミュニケーションが必要なグループ活動などを通し、そのときのレベルに応じたとりあえずの結論を導き出す体験をさせる。生徒が課題に直面したとき、どのように問題解決すべきかの素地になればと考える。自己実現のために他人とのコミュニケーションが必要な場合の一助になると考える。</p> |